

# 清掃だより

No. 5



## 不燃物終末処分地特集

「ごみなんて収集所に出せばいいんでしょ、ほんとうにそうでしょうか。あなたは知っていますか。あなたのごみが、社会問題を引き起こし、あなた自身が加害者になっていることを。」

収集所に出せば終わりではなく、そのごみのゆくえを知り、そして、多くの人々のご協力と犠牲のうえで処分されていることを認識してください。

「ごみ穴をこの地域に掘るなんてとんでもない」

「なぜ、私たちの生活環境をおびやかすものを、ここに作らなければいけないの」

もし、あなたの地域にごみ穴を作るとすれば、必ずこのような疑問を誰れもが持つでしょう。

みなさん、一度「自分の家のそばにごみ穴が作られたら」と考えてみてください。

そして、さらに処分地周辺市民の立場に立ってみてください。

おのずと、私たちがいまどのような協力を、そして努力をしなければならないのかかわかると思います。

## いまだごみで

## このような御協力を

◎燃えるごみと、燃えないごみは必ず区別して出してください。

◎自分のごみは最後まで責任を持ちましょう。

◎ごみ収集所はごみ捨て場ではありません。清潔に保ちましょう。

◎ごみは必ずふたのあるポリバケツで出しましょう。

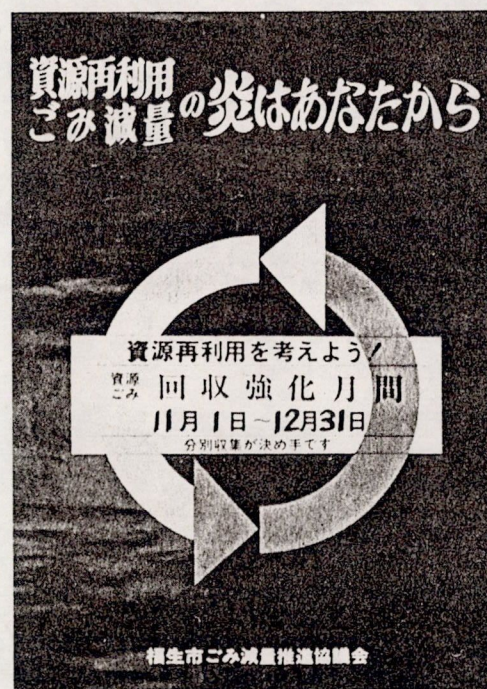
◎過剰包装は追放しましょう。

### 資源ごみ回収強化月間

十一月・十二月は資源ごみ回収強化月間です。

新聞紙・ダンボール等の古紙はみなさんから見ればただのごみでも、古紙たちはきつともう一度お役に立ちたいと思っていることでしょう。

期間中は各町会で集団回収が行なわれます。みなさん一人一人の力で、この運動を盛り上げましょう。





# 不燃物終末処分地小史

## きょうも開かれる 話し合い

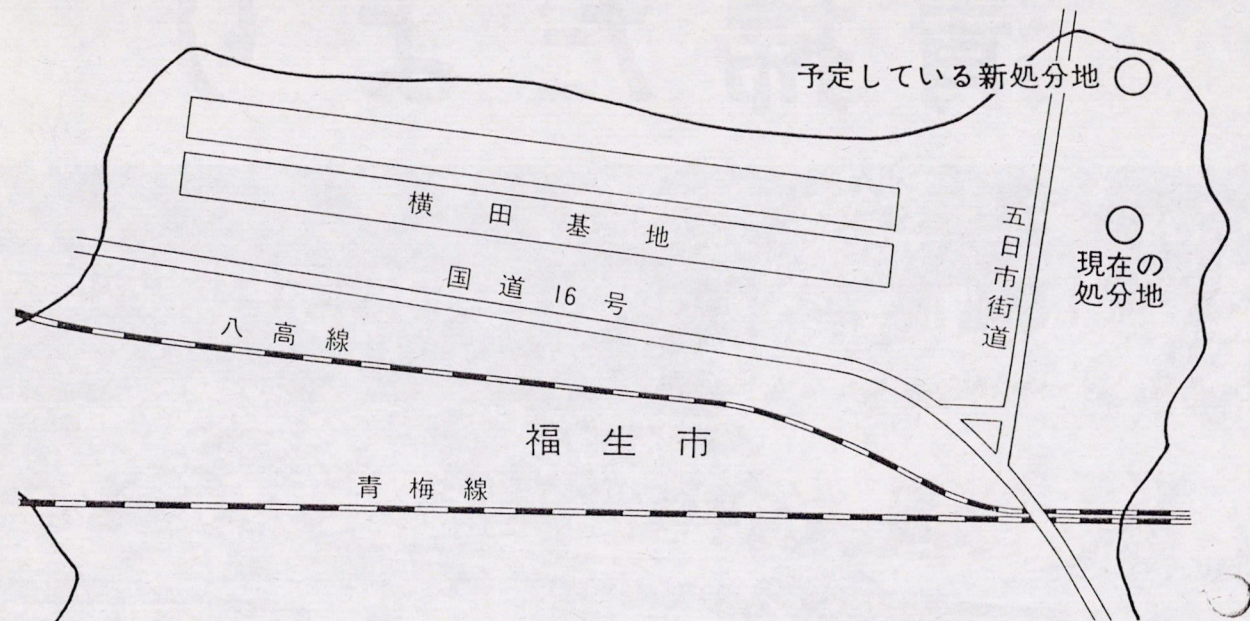
「なぜ、俺たちが他の市や町のごみの犠牲にならなければいけないのか」……

六年前、私たちは、羽村・瑞穂両町のごみ戦争と両町民の悲痛な叫びを聞きました。両町のごみ穴から追われた市では、市民のごみを処理するためいま、福東町会のみなさんに迷惑をおかけしています。

市民の皆さんは知っていますか……。現在の埋立処分地（福生市熊川一六〇三・福東町会内）を確保するときからいままでも、福東町会の皆さんは、全市民的な立場に立って、何回となく開かれる話し合いに、多数の方が貴重な時間をさいて参加していただき、ご迷惑をおかけしているうえになお、たいへんなご協力をいただいていることを。

このようなご協力があつてこそ、今日の埋立処分地があり、全市民のごみを不自由なく処理することができたといえます。

福東町会のみなさんには、これから市民のために新しい埋立処分地についてご協力をいただくとともに引続きご迷惑をおかけしなければなりません。市民のみなさんには、何不自由のない生活を送れることは、処分地周辺住民のこのようなご理解、ご協力があることを、是非とも知っていただき、ごみ問題は他人ごとではないことを、一人一人が十分認識していただきたいと思います。



- 昭和四十八年
  - 江東、杉並両区でのごみ戦争
  - 羽村、瑞穂両町でのごみ穴反対運動
  - 福生市自区内に埋立処分地確保開始
  - 熊川武蔵野地区周辺住民のみなさんのご理解とご協力を得て処分地確保
- 昭和四十九年
  - 不燃物終末処分地（通称さつき園）稼動
  - 搬入量一ヶ月二百十八トン
- 昭和五十年
  - 搬入量一ヶ月二百五十三トン
- 昭和五十一年
  - 搬入量一ヶ月三百二十五トン
- 昭和五十二年
  - 搬入量一ヶ月三百三十八トン
- 昭和五十三年
  - 周辺市民との協定期限切れ
  - 数度にわたる話し合いの結果、地域住民のご理解により使用延長が認められる。
  - しかし、この処分地もあと僅かで満杯になってしまいます。

## ごみ公害を発生させない ために

一日一回以上の消毒。ごみの飛散を防ぐ覆土。ごみ公害（悪臭・カやハエの発生）を防ぐため、市ではいろいろな防護策を行っています。

しかし、空カンや空ビンなどの不燃物からは悪臭やカ、ハエなどの発生は必ずです。どうしてでしょうか。

市では不燃物と可燃物を分けて出す分別収集を行っています。これは、不燃物と可燃物それぞれの処理方法、処分場所がまったく違うからです。

でも、なかには不燃物に生ごみや紙類を入れて出す方がいます。これがごみ公害の元凶です。

ごみを収集所に出すまでが市民みなさんの責任。それを収集し処分するのが市の責任です。しかし、収集時でも処分時でも同じ福生市民が迷惑を受けていることを考えて、最後まで自分のごみに責任を持ちましょう。

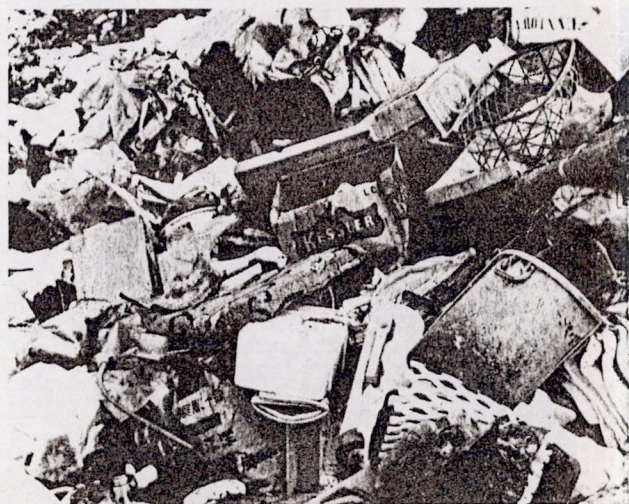
## 埋立量を少なくすることは できます

たとえ広大な処分地であっても、収集したまま埋立てていては、すぐに満杯になってしまいます。

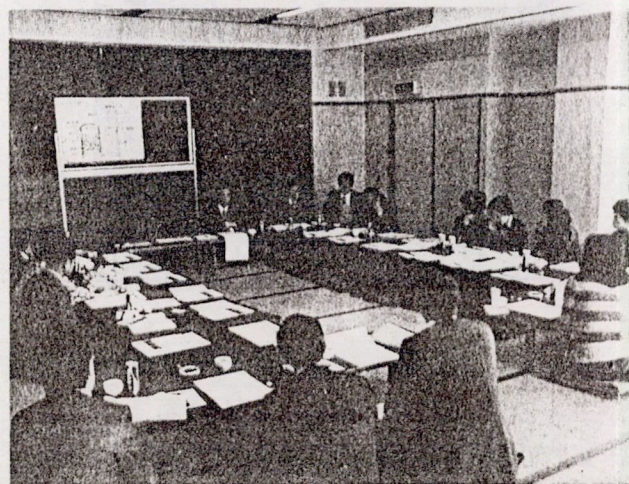
市では、不燃物のなかに含まれる空カン・空ビン等を手あるいは機械選別して資源の再利用及び埋立地の延命を計っています。

昭和五十二年度では、五百四十八トンもの資源が再利用されました。しかし、それ以上に大切なことは、少しでも埋立処分地の寿命が伸びたことです。

大切な埋立処分地。市民全員の力で護りましょう。



- 可燃物と不燃物分けてあるでしょうか
- 福東会館での話し合い



- 圧縮破砕機でごみの資源化
- プレスされた空カン

